

忘れられない笑顔

〈愛知県〉
森本 綾 もりもと あや
39歳

食道がんのEさんは、手術後に病状が悪化してICUに入った。ICUではベッド上の生活が1カ月以上続き、回復して私たちの病棟に戻ってきた時には寝たきりで笑うことも無かった。

そこで私たちはEさんが1日でも早く歩けるように、理学療法士と共に計画を立てリハビリをした。私たちはEさんのためにと毎日躍りになった。けれどEさんは無気力に「やりたくない」「疲れた」と繰り返し返すばかりだった。

どうしたらEさんに笑顔が戻るのかな。悩む私に先輩が「Eさんはお風呂が好きだと、奥さんが言っていたけどいつ入れるかな」と声を掛けてきた。「今は入れないんですか」。

私はすぐに質問した。「うーん、今は難しいな」という先輩に、他の看護師も「無理だよ」「危険だね」と続いた。私もそう思った。その時、同僚が「今は無理でも、目標にすることはできますか」と言った。「それいいね」「準備しよう」「時間は短く」「人数も確保して」「Eさんの体力向上も」と、どんどん続いた。その日の話し合いはとてもワクワクした。

3週間後、医師の許可を得ることができた。そのことを伝えると、Eさんは驚いた顔で「本当！僕はほとんど立てないのに」と半信半疑だった。私たちは「大丈夫。私たちがいます」と胸を張って答えた。翌日に無事入浴したEさんは、ほっ

とした表情で「ありがとう」と言った。私たちも介助がうまくいき大喜びをした日だった。Eさんは入浴をきっかけにリハビリに意欲的に取り組み、なんと2カ月後には歩いて退院できた。退院前日、Eさんは私に「あの時はありがとう、初めてお風呂に入った時は夢みたいだったよ」と満面の笑顔を見せてくれたのだ。あの時の笑顔は今でも忘れられない。

このできごとで、看護力とはチームの力であることを知った。Eさんの笑顔は私一人では取り戻せなかった、チームで取り戻したのだ。そして、患者さんの笑顔は私たちの原動力である。